令和３年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立千寿桜小学校
校長　　田村　正弘

１　学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、児童並びに地域の実態に即し、国際化、高度情報化の時代に対応できる知・徳・体の調和のとれた心豊かな児童の育成を目指し、次の目標の達成を図る。
・学ぶ喜び　　・ふれあう喜び　　・鍛える喜び　をもつ子供

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	～児童・保護者・地域から信頼され愛される学校～ ・基礎学力が定着し、豊かな心が育ち、いじめを許さない学校 ・全教職員が創意を発揮し、熱意と誠意をもって、協働している学校 ・家庭、地域、異校種、関係機関等と連携し、安全・安心で開かれた学校
○児童・生徒像	・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」が育まれ、将来の社会を生き抜く力の基礎が育っている児童 ・互いの気持ちを思いやり、人権を尊重し、規範意識をもった児童 ・進んで運動に親しみ、心身を鍛える健康な児童 ・大きな夢をもち、自分の課題を最後までやり遂げる児童
○教師像	・教師としての使命感・熱意・愛情をもち、社会性に富んだ教師 ・児童にとって、楽しい授業、よく分かる授業、主体的に学ぶ授業を工夫できる教師 ・安全、安心に配慮し、子ども一人一人を大切にした教育を推進する教師 ・保護者や地域の人々と連携し、児童や保護者、地域から信頼される教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

１　基礎学力の定着と主体的に問題を解決する力の育成
参考として実施した７月の区の学力調査では目標を大きく上回り通過率85%は達成できたが、第４学年以上で国語の言語に関する理解が課題となっている。特にローマ字に関しての正答率が低い。第３学年で履修した後、触れる機会が少ないので、様々な場面で活用することにより定着を図る。区の指導力向上中核校としての研究を通し、理科好きな児童が増えている。特に主体的に問題解決する力が身に付き始めている。今後も観察・実験を中心として、科学的に考える力の育成を図る。また、ＭＩＭの取組では一定の成果が見え始め３rd ステージ児童が限定されたので学校として支援に取り組む。
２　基礎体力の定着向上と健康な体の育成
体力調査が実施できない中、投力の向上に向けた調査や投げ方指導を徹底してきた。コロナ禍のためＴスコア分析ができなかったが、高学年では、昨年度の都平均を上回っている。今後は、保育園や幼稚園との連携を図り、幼児期からの体力向上を啓発するとともに、定期健康診断の結果から治療を要する児童に対して早期治療の勧告を一層推進する。
３　いじめがなく、毎日楽しく通える学校づくり
「いじめ防止対策委員会」において、毎月いじめに発展しそうな案件を洗い出し、学級担任等からの聞き取り、対応を迅速に行った結果、継続するいじめの件数は０であった。今後は「相談する相手がいない」と回答した児童へフォローアップを充実させるとともに、PTA や開かれた学校づくり協議会、生活委員会によるあいさつ運動を充実させ、児童アンケートや保護者アンケートの肯定的な回答率を高める。

4　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	科学的な思考力の向上			○	○	○
3	基礎体力の定着・向上（投力を柱として）と健康な体の育成					
4	思いやりの心の育成といじめ対策の強化					

5　令和３年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

A　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
①学習の基礎である「読む力」「書く力」の育成を図る ②基礎的な計算力の育成	①４月　通過率各教科 83% ②12 月　課題とする５問について、再調査７P 上昇 ③計算コンテスト 90%合格	①4 月通過率　国語 84.6%% 算数 86.3% ②集計中 ③計算コンテスト　97%合格	区学力調査の通過率は達成基準を超えたが、学年別には課題もある。学習意欲、家庭学習、読書等の意識調査結果が高い。 学習コンテストは定着し成果が見られる。	◎

B　目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象 実施教科	頻度 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規改善	桜☆学習コンテスト	全学年 国語 算数 社会	７月 ９月 １月	・長期休業前に漢字・算数・ローマ字・23 区・都道府県名の課題を課す ・長期休業明けにテスト ・コンテスト期間内であれば何度でも再受験	全員満点となるよう毎回３回以上実施 すべて１回で合格はプラチナ賞	①各回平均 85%が合格 ②プラチナ賞 15%	第２回学習コンテストまで ①最終合格者は 92% ②１回で満点は 13%	学習コンテスト１回目合格を目指す児童が増え、長期休業中の学習の質が上がった。	○
2	ＭＩＭ－ＰＭフォローアップ	第１学年 国語	年間	・「MIM-PM→フォローアップ指導→再アセスメント」のサイクルを定着 ・夏季自習教室で第１学年のみ「MIM-PM→フォローアップ指導」を実施	ＭＩＭ－ＰＭの結果	①７月までにサイクルを全学級実施 ②２月までに 3rd ステージを 15%未満	①６月までにＭＩＭのサイクルが定着 ②２月実施の MIM-PM で３rd ステージは４人（4.4%）	第１学年でのＭＩＭの学習スタイルは定着した。次年度は、２年生でも３回以上実施予定	◎

3	自学自習 家庭学習 の取組	第２学年 以上 全教科	年間（２年は後期から）	家庭学習習慣化と興味ある学習の追究を目的に ・宿題とは別に自ら考えた課題で家庭学習を行う ・毎日提出させ学級担任が確認返却する	児童アンケート	家で宿題以外の勉強をする児童 70%以上	児童アンケート「家で宿題以外の勉強をする」児童 69%	区調査の意識調査では 72%を超えていたが、1 年生は未定着なので、全校平均は 69%となった。	○
4	短作文の取組	全学年	週１回	・教科領域を問わず、低学年 100 文字程度、高学年 200 文字程度の短作文を書く習慣を身に付ける ・テーマや書き出し読む対象等を工夫し書く力を身に付けさせる	学級担任からの聞き取り	年間 30 回以上短作文に取り組んだ学級数 80%	16 学級中 8 級実施 50%	国語のみで扱うものと勘違いしている教員がいたため、達成率が伸びなかった。あらゆる教科・領域、場面での活用例を示していく。	△

重点的な取組事項－２	科学的な思考力の向上

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体験活動を通して、主体的に問題解決する児童の育成	①体験的な学習･校外学習を年３回以上（２年生以上） ②自分で不思議を発見しなぞを解き明かそうとしていると回答する児童 70%	①各学年平均４回実施（第２学年は１回のみ） ②自分で不思議を発見しなぞを解き明かそうとしていると回答する児童 69%	体験的な学習を取り入れようとする教員の意識は高まったが、コロナ禍で中止になる取組もあった。	◎

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
理科・生活科指導力の向上	「自分で不思議を発見しなぞを解き明かそうとしている」児童 70%	・全学年で年 1 回以上の研究授業を公開 ・第１回授業を校長が実施	低学年は生活科、第３学年以上は理科で全学年研究授業を実施 ･校長の示範授業を５月に実施（コロナ禍のため児童役は教員）	研究授業・協議会は計画通りに実施してきたが、１．２月はコロナ禍のためビデオで実施	◎
自らの学習活動の発展・振り返りができる児童の育成 （ＩＣＴの活用）	①「実験･観察をしたら、自分の考えを振り返っている」児童 80% ②プログラミング実施３時間以上（６年）	・６年理科「電気の利用」の発展でプログラミングを導入 ・タブレットのグーグルを利用した学びの振り返りを各単元で実施	①「実験した後で話し合っている」児童 84% ②第６学年が２月に「電気の利用」でプログラミングを実施予定、その他第４学年でも実施	すべての学級担任が Google クラスルームでフォームを活用し実態調査や振り返りの実施	○

重点的な取組事項－３	基礎体力の定着・向上（投力を柱として）と健康な体の育成

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
「投げる力」を重点として、体力の向上を図る。また、瞬発力を高めるための取組を実施する。	「ソフトボール投げ」の東京都Ｔスコアを第３学年以上で 50 ポイントを達成	第３学年以上男子は、全学年で達成せず、女子は全学年で達成	コロナ禍、校庭改修等で有効な取組ができなかった	×

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎体力の向上 （課題種目の改善）	・ソフトボール投げ平均記録を昨年度値維持	・投げ方教室 ・コロナ禍におけるボール運動の工夫 ・休み時間の体操の取組（ラジオ体操、オリパラ音頭等） ・「短縄教室」を全学年別実施	・投げ方教室は感染拡大のため中止 ・ボール運動は期間限定で実施 ・オリパラ音頭、ラジオ体操は、全校体育と体育集会で実施 ・短縄は全学年で取り組み	コロナ感染拡大及び校庭改修で外体育や外遊びの機会が失われ結果を出せなかった	×
教員の体育指導力の向上	・年２回の体育実技研修会を実施する。	・２領域以上で実技研修会 ・自主研修会で体育研修実施	・副校長による器械運動指導の研修実施 ・ＯＪＴ研修で体育１回実施	教員の指導技術には寄与できたが、今後も継続的に実施する	△

重点的な取組事項－４	思いやりの心の育成といじめ対策の強化

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・いじめ防止の徹底と早期発見、早期対応、早期解決、深刻ないじめ根絶 ・体験的な学習や地域と触れ合う行事をとおして、地域に見守られ、安心して通える学校とする。	・４か月以上継続するいじめの件数を０にする ・児童アンケートで「安心して、楽しく学校に来ることができた」の肯定評価を 90%以上にする	・４か月以上継続したいじめは第６学年で１件 ・児童アンケート「安心して、楽しく学校に来る」89%	いじめに関しては、被害児童の意識が強く、完全な解消には至っていない	△

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

いじめ・暴力行為の根絶	①いじめの疑いとして認知した件数を 500 件以上 ②いじめとして把握した場合児童と保護者の不安を年度内にすべて解消	・いじめアンケートで「相談できる人がいない」児童を全職員で共通理解（10 月） ・アンケート内容を管理職がすべて把握 ・いじめ防止研修会を年５回以上実施 ・毎月委員会を開催し担任等からヒアリング ・生活指導夕会を週１回実施	・いじめアンケートで「相談できる人がいない」児童は３人（11 月） ・アンケート内容を管理職がすべて把握 ・いじめ防止研修会を年５回以上実施 ・毎月委員会を開催し担任等からヒアリング 165 件 ・生活指導夕会を週１回実施	・いじめ一覧表を全教員のデスクトップに貼り随時入力し、毎月の委員会で全件聞き取りをした ・認知件数は減少したが、些細な案件も報告されている	◎
思いやりの心の育成	①保護者アンケートで「学校は思いやりの心を育て、いじめ防止に努力している」の肯定評価 90% ②児童アンケートで「安心して、楽しく学校へ来ることができた」の肯定評価 90%	・幼保小連携、小中連携の工夫（間接交流） ・地域にかかわる体験活動や本物に触れる活動等を各学年２回以上実施。 ・学校の安全点検を毎月実施、危険個所の対応を即時行う	①保護者アンケートで「学校は思いやりの心を育て、いじめ防止に努力している」の肯定評価 90% ②児童アンケートで「安心して、楽しく学校へ来ることができた」の肯定評価 89%	・保護者アンケートでは圧倒的に肯定的な結果と、文章による感謝の声をいただいている ・児童アンケートでは、1 割の児童が否定的な回答なので改善が必要	△

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

（ア）学力向上アクションプランについて（〇成果　△課題　□解決策）

〇「桜☆学習コンテスト」に関する児童や保護者の意識が高まり、基礎学力定着に結びついている。

〇指導力向上中核校における研究を通して、全教員が問題解決による授業を実施できるようになり、学習に対する児童の主体性が向上している。

△宿題以外の自学自習による家庭学習の定着度は、わずかに 70%を達成できなかった。百文字作文についても学級差が大きい。

□自学自習ノートの優れた実践例を画像データ化し、学習用フォルダに保存し、学年の実態に応じていつでも例示できるようなデータベースにする。

（２）保護者や地域へのメッセージ

①本校の素晴らしいところは子供たちが授業中熱心に取り組むことと、読書活動が盛んなところです。今後家庭学習の定着を目指します。

②今年度は学校公開の機会が少なかったので、ＨＰでのブログを随時更新や、こまめなメール配信などにより学校の情報公開に努めました。少しでも不安解消につながれば幸いです。感染状況が落ち着き次第、今年度以上に子どもたちが学習している姿をお見せしたいと思っています。

③感染症対策及び校庭改修工事のため、外で運動する機会が少なかったので、体力向上に関しては十分ではなかったと思います。次年度は、投げ方教室や走り方教室、短縄、長縄、持久走の取組等を計画通り実施し体力向上を図ってまいります。

（３）その他（学校教育活動全般について）

①生活委員会の挨拶運動等により、登校時両足を止めて、きちんとお辞儀をするなど、気持ちの良い挨拶ができる児童が増えました。

②音楽や図工などの芸術活動に熱心な児童や、基礎基本を活用しようとする児童などが増え、子供の成長を感じます。体力の向上が今後の課題です。